

## 【旭区】令和4年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和4年6月8日(水) 13時30分 ～ 14時50分
場 所	旭区役所新館2階 大会議室
出席者	<p>【座長】佐藤 茂議員</p> <p>【議員：4名】こがゆ 康弘 議員、河治 民夫 議員、 大岩 真善和 議員、木内 秀一 議員、</p> <p>【旭区：23名】権藤 由紀子 区長、千田 満 副区長、 亀井 直樹 福祉保健センター長、 富士田 美枝子 福祉保健センター担当部長、 松村 克紀 旭土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】</p> <p>令和4年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p>
発言の 要 旨	<p>(議題)</p> <p><b>1 令和4年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</b></p> <p>木内議員：「区民に身近で信頼される区役所事業」の「区民ニーズ迅速対応事業」について、具体的に何を進めていくのか詳細を伺いたい。</p> <p>今市総務課長：旭区改革推進委員会において、取組を進めていく予定。今月中旬から活動を始め、今後、メンバーの意見を聞きながら、改善策を考えていく。</p> <p>木内議員：窓口業務は重要な業務であるので、区民に寄り添った対応をしてもらえればと思う。</p> <p>ヤングケアラーについて、なかなか表面化されずに苦しんでいるお子さんがいることが問題になってきているが、取組を進めているものがあれば伺いたい。</p> <p>松田こども家庭支援課長：ヤングケアラーについては今年度、こども青少年局で調査を行うことになっており、予算に盛り込まれている。区としては、関連する様々な支援や地域での支援、学校等での気付きを区役所へつなげていただき、個別的支援を行っており、引き続き取り組んでいく。</p>

木内議員：身近なところでのフォローが必要なので、よろしくお願いします。

「認知症をみんなでささえるまちづくり事業」の「啓発活動の展開」について、様々な取組をしてもらっている中で、当事者に情報が行き届かないケースもあるかと思うので、しっかり情報が届く体制を今後も検討してもらいたい。

河治議員：「希望ヶ丘駅周辺のまちづくりに関する検討」について、「冊子を作成し、周知・共有を図る」とあるが、地域では情報が町内会の役員までしか届いていないことがある。地域において、広く、数多く、意見交換会などをやっていただきたい。また、図では都市計画道路が相鉄線と交差する形になるが、まちづくりにおいて幹線道路は影響が大きい部分なので、どのような方向で議論されているのか伺いたい。

蒲田区政推進課長：一般の方に周知し、まちぐるみで機運を盛り上げていただきたいと考えており、地域への説明は必要と考えている。都市計画道路については、道路単体というよりもエリア全体を、どういう手法で、どう開発していくか、今後、コーディネーターを交えながら検討する必要がある。

河治議員：先ほども申し上げたように、幹線道路はまちづくりで影響が大きい部分なので、並行して進めてほしい。

「水・緑・花を暮らしに取り入れた旭区魅力アップ事業」の「事業達成指標・目標」に「ホテルの自生を目指す地区が2地区」とあるが、旭区にはホテルが自生する場所が2カ所しかないのか。

蒲田区政推進課長：目標としている2カ所は、区が専門家を派遣して活動に取り組んでいる地区のことで、若葉台と旭北が該当する。他に自生している箇所は、こども自然公園など複数箇所ある。

河治議員：追分市民の森の裏側も自生地区となっているか。

蒲田区政推進課長：5カ所程度あるが、場所の確認ができないため、後日、回答する。

河治議員：自然豊かなところが旭区の魅力であるので、ホテルの自生が確認できている場所については発信してほしい。

こがゆ議員：「交通安全対策事業」の「スクールゾーン対策事業」について、警察・土木事務所・区役所の区分けがあって、スクールゾーン

対策協議会から学校に要望しても、なかなか改善されないと聞いている。要望件数と、そのうちどの程度改善されているのか伺いたい。

中村地域振興課長：スクールゾーン対策協議会での要望件数は、多い年で500件程度。少ない年で350件、概ね、年400件程度ある。対応できていないものは神奈川県所管の部分で、予算措置の問題で緊急度の高いものから優先にしているためなかなか対応できていないと聞いている。区役所・土木事務所が所管の部分は概ね対応できている。警察で対応できない部分についても、区役所でできることとして、地域に御理解いただきながら啓発を進めている。旭区は交通事故件数も多いので、今後も関係機関と連携して取り組んでいく。

佐藤議長：警察所管というと、信号などか。

中村地域振興課長：交通法規に関わる部分になるので、横断歩道や標識といった部分になるが、なかなか順番が回ってこないと聞いている。

こがゆ議員：横断歩道や路面標示の色が剥げているという話も聞く。警察の所管部分についての要望は多い。要望にしっかりと対応できる体制をとってほしい。県警とも連携し、県警が対応できない部分でも区・土木事務所が対応できるものがあれば、対応していただきたい。

「あさひ魅力発見事業」の「畠山重忠公 魅力発信事業」について、盛り上がりを感じている。二俣川に置いてあるマップも、人が読んでくれているのを目にする。旭区は元々、歴史的な土地柄であるので、この活動を一過性にせず、子どもたちにも冊子を配るなど歴史を教え、長く継続していてもいいと思うが、御意見を伺いたい。

中村地域振興課長：継続して啓発していきたい。今回の取組を契機にガイドボランティアや県公文書館といった関係機関とのつながりができ、深谷市とも調整を進めている。引き続き連携し、地域の方に畠山重忠公を知っていただく啓発を続けていきたい。

こがゆ議員：よろしく申し上げます。

6月22日に慰霊祭があるので、薬王寺に伝わる話など、一般の方に広くPRしてもよいのではないかと。

「郊外部における働く場の創出事業」について、左近山団地において若い方を中心に様々な取組をしているが、現役・子育て世代の定住促進という点でいうと、団地内に空きスペースはあるのか。若い人が入ろうと思えるインセンティブがどのくらいあるのか。駅から離れている環境で、シェアオフィスのニーズはあるのか。しっかりしたPRやインセンティブが無いと、難しいのではないかと思うが、どのような具体案を考えているのか伺いたい。

蒲田区政推進課長：団地内に働く場を、ということで、シェアオフィス・コワーキングスペースを設けることを想定している。利用者へのインセンティブとしては創業支援などを考えている。地域の方に使っていただけるような広報をやっていききたい。一定のニーズがあると認識している。

こがゆ議員：職住近接という視点から、団地に住んでいれば利用料半額とか、コワーキングスペースを利用すれば入居料を下げるといったインセンティブがないと目標を達成できないのではないか。団地内の空き部屋をどう活用するのかということとセットで考えないといけない。働く場を作って遠くから通って来てもらっても、あまり意味がない。新しいイノベーション、新しいことをやっていただくために利用してもらわないと若い世代が入ってこない。次の世代のことを考えて実施してほしい。

「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」が策定されたが、歳出改革、ゼロからの見直しと言われている。これから、個性ある区づくり推進費の見直しも進められていく可能性があるが、必要だけれど成果指標に乗ってこないような事業をどうするのか等、財政局や政策局からはどういう方向で話があり、旭区はどう見直しを進めていくのか伺いたい。

今市総務課長：個性ある区づくり推進費の見直しについては、市民局で議論しているところであり、方向性は決まっていないが、区とよく話し合いながら進めていきたいと聞いている。事業の性質や内容を見ながら、18区統一で行っていくものとそれ以外のものを分け、地域の特性から区で実施しなくてはいけない事業に区づくり推進費を充てる方向になるのではないかと聞いている。

こがゆ議員：今後、個性ある区づくり推進費も見直しの方向に進むと思う

が、区の中でも運営の仕方を整理して考えていただきたい。

大岩議員：道路の整備について、進捗状況を確認したい。一点目は、ズーラシアの前を抜ける道路の整備状況について、現状どうなっていて、いつごろ完成するのか。二点目は白根通りについて、どんな状況で、どう完成するのか。三点目は鴨居上飯田線について、今年度完成と聞いているが、その通りの予定で変更ないか。

蒲田区政推進課長：一点目と三点目について説明する。

一点目については、中央道路と呼ばれている「よこはま動物の森公園」内から三保街道に延伸する道路で、環境創造局が進めている。軟弱地盤の工法の検討や、関係機関との協議を今年度も引き続き実施すると聞いている。また、中央道路開通後の交通量予測調査を実施するとも聞いている。開通時期は示されていないが、区としては、園芸博までに完成してほしいと考えている。

三点目の鴨居上飯田線については、令和4年度末の供用開始を目指していると聞いている。

石田土木事務所副所長：二点目の白根通りについて、令和4年度内の完成を目指しているが、神奈川県警との協議や用地取得に時間がかかっている。具体的には「食品館あおば」から「鶴中入口」バス停区間については今年度に工事が実施される。この区間から南側の斉藤橋までの区間は県警との協議後に着工する。中原街道側は用地取得が残っている部分があり、手続きを進めている。

大岩議員：三保街道については、また改めて説明していただきたい。

佐藤議長：白根街道の県警との協議というのは、何の協議なのか。

石田土木事務所副所長：信号や横断歩道、道路線形の位置などの内容で、積極的に協議し、早く進めたいと考えている。

佐藤議長：「子育て・若者支援事業」の「妊娠・出産マイカレンダー」は、旭区独自の取組ということで旭区の魅力につながると思うが、作った経緯を伺いたい。また、子育てに関することで、様々な悩みを抱えた方がいる中、他区では行っていない独自のプログラムがあれば伺いたい。

松田こども家庭支援課長：「妊娠・出産マイカレンダー」には、支援を受けられる場所等の情報を載せている。妊娠・出産の時期は人によ

	<p>って異なるので、それぞれに合った内容を自由に書き込めるようになっている。専門職が窓口で御案内しながら、広報・支援をし、その後の支援につながるようにしている。旭区独自の取組としては、働く父親が参加しやすいように土曜日の両親教室を実施している。これまで区役所で実施していたが、令和4年度からは、地域子育て支援拠点でも両親教室を開催し、妊娠期の支援に力を入れている。</p> <p>佐藤議長：旭区への転入促進として、これから子育てをする世代への情報発信があるが、子育て世代が魅力を感じる子育て支援を、アイデアを工夫して行ってほしい。旭区は、自然の豊かさや公園といった環境では他に負けない。子育てしやすい環境というイメージをPRしてほしい。</p> <p>河治議員：人口動態で見ると、市内でも旭区は減が多い。要因は様々あると思うが、行政ではどう受け止めているのか、要因をどう捉えているのか伺いたい。</p> <p>蒲田区政推進課長：毎月の人口動態を見ると、旭区は千人単位で減っている。旭区では自然減で亡くなっている方が多いが、転出入の社会増減で見ると増となっている。旭区の魅力を発信し、転入・定住を増やす取組を行っていききたい。</p>
備 考	会議の議事録作成については座長に一任で異議なし